

談呆国憂

season 2 VOLUME 29

今月の憂いト

自民党の新総裁から、
復興予算の使い途、
尖閣諸島の領有権、
ノーベル賞受賞まで！

京都・錦市場の路地裏にある野菜料理店「ハレ」で、
名物「京野菜のせいり蒸し」を食べながら、
田中・浅田両氏が日本の政治を「刀両断」。
日出ずる国は、このまま沈みゆくのみなのか？
再浮上のための妙案を語り合った。

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

憂

田中康夫

浅田彰



安倍晋三自民党新総裁は「先祖返り」すれば面白い？

浅田 石原慎太郎知事が尖閣諸島を東京都が買うと言い出し、妙なことをされるのを抑える意味で国が買ったわけだけど、その騒ぎのせいで日中間係が無用に緊張した揚げ句、右翼気取りの安倍晋三が自民党総裁に選ばれちゃった。前総裁の谷垣禎一は参院選をはじめとするほとんどの選挙に勝利し、野田佳彦首相に解散を迫りきれなかったといえ大きなミスもなくやってきたのに、むりやり引きずり下ろされて、長老たちの覚えがめでたいと言われる石原伸晃が出てきたと思ったら、親父が火をつけた尖閣問題が徒（た）となって安倍にしてやられたという、なんとも皮肉な結果だね。他方、民主党の第3次改造内閣は、完全に内向きの人事で、問題を抱えた人物がずらつと並び「どうぞ攻撃してください」と言わんばかり。政権交代から3年でこれほど絶望的な政治状況になるとは！ 外は領土問題、内はハシズムで右傾化が進むなか、政党政治は麻痺したまま漂流してるね。

田中 歴史的にも国際法上も日本の領土であるのは明らか、と日本共産党も主張していたのに、石原と野田佳彦の間違いだらけの「決断」で日本の国益、国民益が毀損したのは明らかだよ。認識の甘さを露呈する石原伸晃は、親父の「お騒がせ」の軌道修正もできず、尖閣問題の余波は収まらないけど、こうなるとウルトラCの発想で、安倍が自民党総裁であること自体が外交における抑止力になってると捉えるべきかもしれないよ。領土問題は短兵急には解決しないのだから、沈黙は金。それだけでひとつの脅威となる。

仮に次の総選挙で首相になったら、党内で彼を支持する原理主義教育論者と新自由主義経済論者の上でバランスを取りながら、富国強兵ならぬ富国裕民の社会福祉や公共投資を進めたり、上関原発建設予定地だった祝島に飯田哲也と一緒に出かけようという昭恵夫人を見習って突如として脱原発の具体的工程表を打ち出すとか、一大転換すれば面白いんだけどね。実は安倍の祖父である安倍寛は、尾崎行雄や反軍演説の斎藤隆夫らと共に、第2次世界大戦中の翼賛政治に反対し、大政翼賛会から推薦を受けずに見事当選した8名の気骨ある政治家の1人だった。こうした「安倍ブランド」を利用すべきだよ。

浅田 橋下新党との連携も実際はうまくいかないだろうし、そもそも橋下新党自体が国政で力を発揮できると思えない。ポナパルトイズム以来、ポピュリストが大統領選挙を制するケースはあるけれど、議会議事となるといういかげんな候補をかき集めなきやらない、それが国民に見えちゃうからね。まあ、『週刊朝日』がいまだに橋下の出自をほじくり返しているのは低劣の極みで、「身分制によって民主制を否定するのかわ」っていう橋下の批判は完全に正しい。しかし、そういうことを言われるほど、橋下が「国土」を気取って右傾化するっていう悪循環は、救い難いね。

田中 橋下はブレないことが唯一の取り柄だったのに、どうなのかなあ最近。大飯原発の再稼働容認、文楽協会への補助金凍結解除、みんなの党との関係修復もしかり、威勢良くアドバルーンを上げておいて、落



としどころを探るといって、示談に持ち込むための弁護士的手法が見えてきている。主筆の若宮啓文が同和問題に「造詣」が深いのが原因で、一夜にして腰砕けの朝日新聞の気概のなさにも呆れるばかりだけど、連載中止後も「僕は（執筆者の）佐野真一を抹殺しに行かなきゃいけない。朝日新聞グループは鬼畜集団だ。犬猫以下だ」と記者団にまくし立ててる。逆に水平社宣言以来の同和問題を人々が語り考えることを再びタブー視してしまう空気は残念だね。

浅田 右翼の新保守主義と競争一本槍の新自由主義が依然として支配的ななか、かつての自民ハト派から社民右派にいたる、地方や弱者を大事にするリベラリズムを明確に代表する政党がないんだよ。安倍寛や岸信介の系譜を引く安部晋三は新自由主義とは一線を引くべき立場なんで、ここで脱原発を打ち出し、「第3の道」を選べば、完全に野党のお株を奪えるんだけど、まあ無理だよな。

田中 右派に見えた人間がそういう立場を取れば、物事がいちばんまとまるんだけど、今の自民党は民主党を突き上げるだけの野党になってるからなあ。その自民党の小泉進次郎だけど、8月に新党日本を含めた野党6党が提出した野田内閣不信任決議案の採決で、欠席を決めた自民党執行部に造反して賛成票を投じた際、全員退席した議場でじっと座ったまま身動きもしなかった。しかも、それがポーズに見えないんだから大したもん。青年局長の彼は今でも若手の地方議員と一緒に被災地に泊まりがけで出かけ、語り合ってるらしい。政策のせの字

もなかった親父のパフォーマンスとは違うので、おかしな新自由主義的なものに流されない立場に立てば、面白い議員になるかもしれない。

浅田 自民党のホープと呼ばれるのも理由のないことじゃないのかな。まあ、他が酷すぎるってことなんだろうけど。

どうにかならないの？ 復興予算の使い途

田中 酷すぎると言えば、広河隆一が責任編集する『DAYS JAPAN』に掲載されたトンデモ「学術」者、山下俊一の発言記録。前回も指摘したけど、日本甲狀腺学会理事長で福島県立医科大学副学長として県放射線健康アドバイザーを務める山下は、震災発生10日後の3月20日、福島県のいわき市で行った講演で、質問者から「明日から天気の良い日は気持ちよく外を散歩していいということでしょうか？」と問われると、「99・9パーセント、イエスです。100マイクロシーベルトまでならなければまったく心配りませんので、どうぞ胸を張って歩いてください」と答え、翌21日の福島市での講演では、「これから福島という名前は世界中に知れわたります。もう、広島・長崎は負けた。福島の名前のほうが世界に冠たる響きを持ちます。ピンチはチャンス。最大のチャンスです。何もしないのに福島、有名になっちゃったぞ。これを使わん手はない。何に使う。復興です」と妄言を放っている。そして今、その「復興」予算の使われ方は、もつと酷い。北海道と埼玉県の刑務所で利用する小型油圧ショベルなどを約3000万円で購入したり、沖縄県の国道整備に使われたり。

浅田 文科省なんて核融合の研究に使って

るんだよ(苦笑)。

田中 これこそ蓮舫の得意技の「仕分け」対象だ。役人のグリップを利かせられない政府側の見解を糾すべき。

浅田 一方、被災地の現場では、役所の人手不足に加え、規制だらけで復興予算が使えない状況が続いている。それで使えない分を他で適当に使っちゃおうってことにもなるわけだ。

田中 埼玉県加須市の廃校になった旧県立騎西高等学校の教室には、郷里に戻れない福島県双葉町の200名近くの町民が段ボールで仕切られた「寓居」でいまだ避難所生活を続けている。10月の3連休に、アジアンランチのキッチンカーとともに訪れて、野菜のポトフと牛すじカレーを提供してきた。1日3食の弁当はそれまで無料だったのに、埼玉県と双葉町が避難所生活者に食事を無料供給し続けるのは「逆差別」だと指摘され、9月から1100円徴収されることになった。本来は政府が支出すべきでしょ。その一方で、煮ても焼いても流しても消え去らない放射能の除染作業は、単に「移染」に過ぎず、内部被曝の悲劇を生むだけ。しかも、除染費用の政府予算は1人1日あたり4万6000円で元請けのゼネコンや東電の関連会社に支払われている。ところが現場の作業員へは8000円。やらざるばかり詐欺でしょ。強きを助け、弱きを挫くトンデモ話だと10月22日の個別党首会談でも伝えたけど、無反応に近くてイヤイヤだよ。福島原発の事故で「帰還困難地域」に指定された相馬郡阿武隈村の古老たちが有楽町の外国特派員協会で記者会見を開き、日本からの分離独立を宣言する『阿武隈共和国独立宣言』(現代書館)という小説を文芸評論家の斎藤美奈子に勧めら

れて読んだら面白かった。「国民の条件は六十五歳以上。滅び行く故郷の最期を大地と共に看取る」と決意した者たちが、原発事故によっていかに滅びていくかを、インターネットによるあらゆる方法で誰に隠蔽されることもなく、隈無く世界に向かって公開する」という阿武隈共和国の国旗は、「暮しの手帖」の創刊者の花森安治に倣ってポロ布をパッチワークした一銭五厘の旗。国家は、仮設住宅で歌った坂本すみ子の「夢で逢いましょう」。放射能に汚染された土を使って弾丸と花火をつくろうとすると、最後は自衛隊だけじゃなく米軍のヘリまで飛んできてしまうという話。

ハロウィーンやクリスマスまで浮かれている場合じゃない!

浅田 IMF・世界銀行の年次総会が10月に東京で開催された。ユーロ圏の危機はまだまだ予断を許さない状況だし、それに引きずられて世界経済が停滞してるなか、各国が結束して断固たる処置をとることを明示すべき重要な会議だったんだけど、議長

田中康夫

たなか・やすお ●1956年東京都生まれ。一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。長野県知事、参議院議員を経て、現在、衆議院議員・新党日本代表。



役の日本の財務相は直前の内閣改造で替わったばかり、しかも日中の対立のせいで中国の財政相と人民銀行総裁が欠席する始末。むろんこれは日本の責任じゃなく中国が大人気ないんだけど、最悪のタイミングではあったな。

ちなみに、日本銀行総裁の白川方明は、欧米よりも先にバブルの崩壊を経験してるから、金融緩和だけでは景気を浮揚させられないことをよく知ってるし、その言葉を傾聴する人は世界でも増えてきている。内閣府特命担当大臣になった前原誠司はとにかく金を垂れ流しにしろって言うてるけど、それだけじゃ景気はよくなるし、後々インフレが起こるに決まってるからね。田中 口先番長はトラブル番長だからね。冒頭でも触れた尖閣問題は国際司法裁判所に提訴しても勝てるかどうかからな

ってきた。孫崎享も指摘したように、1943年のカイロ宣言で日本は清から奪った領土を中華民国に返還すると定められ、その履行を求めるポツダム宣言を受諾したのだから、1895年に領土に編入した尖閣

現状でも日本は多大な責任と費用を負って、

「逆片務的」な日米安保を成り立たせているんだ。(田中)

諸島も「清から奪ったもの」とされる可能性がある。中国が尖閣諸島の領有権を主張し始めたのは70年代以降と息巻いても、45年のポツダム宣言の段階で日本は放棄しちやうてる。その意味でも勝手に「棚上げ」しておけばよかったものを、石原と野田は嬉々として「決断」して墓穴を掘った。

浅田 野田としては、石原が買ってヘンな施設でもつくったら大変だから、それを抑えるために国で買ったわけだろうけど、その意図を中国のトップに内々に伝えときゃよかったものを、急に「国有化」って言葉が独り歩きしちやうたから、過剰反応を招いちゃった。党と国家がすべてを支配する中国にとって、「国有化」って言葉は刺激が強いからね。財界から中国大使に起用された丹羽宇一郎が石原の構想を批判した、あれは財界のホンネだと思っよ。実際、今回のことで、日本経済が現在のみならず未来も含めどれだけの損害を被ったか。その丹羽を慌てて交代させたことも、誤ったシグナルを送ったと思うな。しかも、民間大使登用の道を狭め、大使人事を外務官僚の思

うままに戻しちやうたわけだし。とにかく、尖閣を国有化したのは単に石原の暴走を抑えるためだつてことを内々に伝えればよかったのに……。

田中 中国からすれば、ウラジオストクAPECで胡锦涛国家主席と野田が立ち話をして尖閣の国有化に釘を刺した翌日に閣議で国有化を決められて、面子を潰された。浅田 そう、およそ最悪のタイミング。

田中 孫崎がBS11「田中康夫のつぼんサイコー!」で看破したけど、日本の外務相と防衛相、アメリカの國務長官と国防長官の4人が出席した2005年の日米安全保障協議委員会(2プラス2)で、島嶼防



衛は日本側の責任と合意している。他国からの武力攻撃があった場合は、日本は自力で島嶼防衛しろってこと。アメリカの憲法に則って議会の承認が得られれば応戦するけど、その間の交戦で島嶼が他国の支配下に移れば、日米安保の対象外だからアメリカは参戦しません、と。民主党政権はそこを理解していない。

「環太平洋合同演習リムパック2014」に中国海軍を招待し、ジャパン・パッシング、ジャパン・ナッシングに傾く現実を冷徹に捉えなければいけないご時勢にあっても、ヒラリー・クリントン国務長官の「尖閣は日米安保の対象」というおべんちゃら発言を真面目に論じようとしてるんだからアメリカポチにもほどがある(苦笑)。現状でも日本は多大な責任と費用を負って、「逆片務的」な日米安保を成り立たせているんだ。安全保障だけでなく、年末になればクリスマスで大騒ぎ。クリスマスはともかく、ハロウィーンなんて、宗教も民族も異なるのにアメリカ以外で騒いでる国は日本くらいだよ。尼崎のダイソーに行ったら2階の踊り場がハロウィーン商品で埋め尽くされていたよ。この国はもう日本を辞めたほうがいいよ(苦笑)。

浅田 ハロウィーンで騒ぐようになったのは、けっこう最近じゃない? 92年にルイジアナ州で日本人留学生がハロウィーンのパーティに出かけ、訪問先を間違えてしまっって「フリーズ」と警告されながら止まらずに撃たれた事件のときも、ニュースではまだ認知度が低かったハロウィーンのことをわざわざ解説してたよ。クリスマスにしても、欧米では家族で祝う日なのに、日本ではただの消費イベントだもんね。

田中 文化の片務をなくすためにもアメリカ

ミシェル・オバマの主要なアジェンダは肥満対策だから、日本食を食べようって運動は悪くないかも。(浅田)

カは正月を祝えと言いたいね。日本食がヘルシーでいいと言えたら雑煮を食えと。

浅田 ミシェル・オバマの主要なアジェンダのひとつは肥満対策だから、日本食を食べようって運動は悪くないかも。

田中 戦後、学校にパン給食を導入して子ども頃からアメリカ流の食生活に慣らされていったのも、日本への小麦の輸出を拡大させ、食料自給率を下げる思惑からだった。TPPと同様。ハロウィーンやクリスマスで浮かれてる場合じゃないんだよ。

浅田 話は変わるけど、ノーベル医学・生理学賞を山中伸弥が受賞した。iPS細胞ってやつで、いったん分化した細胞を初期化してそこからいろんな細胞をつくれるっていうんだから、医療を大きく前進させる革命的な技術に違いない。彼が所長を務める京都大学の研究所では、特許を取り、企業との協力を推進するセクションもあるけれど、よそが特許をとって独占するのを防ぎ、技術をできるだけ公開していくために、自分たちで特許を取るってのは、正しい戦略だと思う。むしろ、将来的にはクロール



浅田 彰

あさだ・あきら ●1957年兵庫県生まれ。京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学大学院長。83年に出版されたデビュー作『構造と力—記号論を超えて』はベストセラーに。

なんかもつくれる可能性が出てくるわけで、倫理問題についても前もって考えとかなきゃいけないけどね。

田中 なのに閣僚有志で洗濯機を寄付すると田中真紀子が胸を張るんだから(苦笑)。

浅田 それから、ノーベル文学賞は、有力候補と言われた村上春樹じゃなく、莫言が受賞した。われわれは村上春樹にずっと批判的だし、ノーベル文学賞にふさわしいと思わない(ノーベル文学賞自体の価値も疑わしいけど)。ただ、村上春樹が尖閣問題に始まるナショナリズムの高揚を安酒の酔いに譬えたエッセイを朝日新聞に寄せたら、中国の作家たちが敏感に反応し、関連科が『インターナショナル・ヘラルド・トリビューン』に寄せたエッセイをはじめとして「よく言ってくれた、中国で作家がこういうことを言えずにいるのは恥ずかしい」っていう趣旨の発言が相次いだ、それは全体としてとてもいいことだったと思う。

朝日新聞の仕掛けも多少あるかもしれないし、日中双方ともいままさらこんなナイーヴなことを言わなきゃいけないのってレヴェ

エルの話だけど、この際それでもいいよ、愚かなナショナリズムの高揚を反省するきっかけになるとしたら。

田中 愛民心、愛郷心でないとな。

浅田 他方、莫言は本国在住の中国国民として初めてノーベル文学賞を受賞したわけだけど、2010年、獄中にある民主化運動のリーダー、劉曉波にノーベル平和賞を与えたことで中国がヒステリックな拒絶反応を起こした、その埋め合わせに今年は当たり障りのない莫言を選んで中国をなだめたんだって説もある。莫言の『赤いコーリヤン』は張芸謀(チャン・イーモウ)が映画化して有名になったけど、張芸謀が共産党公認の映画監督になった、莫言もそれと似たようなものだ、と。ただ、ぼくが少し読んだ範囲でも、莫言の小説は文化大革命以後の中国の精神的空白をかなりリアルに描き出したものだし、そもそも「言う莫れ」っていうペンネームを選ぶところからして、検閲をごまかしながら書き続けるっていう戦略の宣言とも言える。現に、ノーベル賞受賞後の記者会見で劉曉波の解放を望むと明言したしね。

いずれにせよ、石原慎太郎や李明博のスタンドプレーで、日中や日韓で異様に緊張が高まった、それは特殊事情だとしても、中国が大国になり、しかも大国らしい振る舞いがまだ身につかない間は、東アジアで緊張が高まるのは避けられない。だからといって、アメリカの軍事力による抑止に頼るだけじゃ、根本的な問題解決にはならないし、沖縄のようなところに犠牲を強いるだけ。むしろ、こういう状況だからこそ、文学をはじめとする文化交流、国際ならぬ民間交流がますます重要になってくるんだと思うよ。